

鐵假面（二幕）

唐十郎

出沒群

姉 暁テル子  
妹 千羽スイ子  
タタミ屋  
乞食の頭領 味の素海外出張部長味代  
紙芝居屋  
おしろい婆ア  
公園課職員 見世物小屋主  
中年男  
警官 明智小五郎  
リュック・サックの男 タタミ屋の叔父  
ドテラ男  
味代の部下味の素  
町内の男 1、2、3  
町内の女 1、2、3  
鉄仮面  
へび

一幕 乞食の女王

公衆便所の手洗い場で髪を洗っている女がいる。それも夜更けだ。

女 (ぬれ髪でキッと顔をあげる) 誰よっ。そこにいるの!

やぶの陰からヌッと顔を出した若い男。

若い男 何をしてるんですか。

女 あんた誰よ?

男 通りがかりの者です。

女 それならよけいなお節介やかないでよ。

タオルで髪を包んで便所の中に入り、すぐ出てくる。  
手にかつらを持っていて、それを大振りでかぶる。

女 まだ見てる!

男 そのカツラどうしたんですか?

女 かくしてあんだよ。あたしのかつらは東京中の便所にかくしてあるのだ。あばよ。

男 待って下さい。

女 待てないよ。

男 ちょっとおたずねしたいんですが、この便所の前に誰か来ませんでしたか?

女 なんだって!?

男 そりゃ、公衆便所には誰でも来るでしょう。そうではなくて、ここでふらりと人待ちげに立っていた人はいませんでしたか?

女 おまえ、覗きかい?

男 いえ、約束したんです。今夜の七時にここで集まるって。

女 ああ、とぐろ巻いてたよ。変態どもがね。

女、ハンドバッグを振って去る。

男（便所の中に）ごめん下さい。誰かいませんか？

急に音楽鳴って、上手より乞食の大群あらわれる。男、手洗い場の陰にかくれる。便所の前で、乞食どもがファッション・ショーを開いている。奴らは黒パン党の未裔か、愛の見返り者か。固くほの暗い公衆便所の向うでは、静冷なる水洗の音がひびいているだろう。ここはまさしく上野の公衆便所の前だ。永遠が腕時計をさがすならば、ここを通らずにはおかない絶対の恥部が今にも、こじあけられようとしている。

不忍池に浮かんだ白いボート  
それに乗せてやろうよ乞食の女王たちを  
見上げる目にやまたたく星だ  
夏は冬となり 春は秋となり  
魚が空を飛び 啞がオペラをうたうだろう  
ねんねこの綿ちぎれて 世にも豪華なこの衣裳  
これさえあれば  
だれだって  
恋の花咲かす

乞食の頭領 沼の向こうから冷たい風が降りてくると  
両手をこすってフウッ！ もういちょうの実もみいんな  
落ちてしまった。手足はかじかみ、耳たぶはまっかで  
息がまっ白になるこの季節、その時こそ、この世の  
垢をまるごと背負いましょう。やりたい命、切りたい  
小指、かわるなかわらじ二世までと。浮き世も後生

も後の日も。おのが背負った垢の淵に身は沈む。すると、俺たち、泥だ。名なしの泥だ。幾万と移動しつづける泥の虫だ。フウッ！

どてらをまとった乞食、台の上に立つ。その男、ポーズをとりながら、客の中の誰かを発見する。

どてらの乞食 あっ、おしろい婆ァだ！ 川向うのおしろい婆ァが来てるぞ。

二、三人の乞食にひきずりだされる老婆。

婆ァ ホ、ホ、ホタル来い。こっちの水は甘いぞ、あっちの水は辛いぞ。

頭領 おしろい婆さん。ここはおまえさんの来るところじゃないよ。